

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



June 2023 vol.110

とよがわ ◆ 豊川 (霞堤)

所在地：豊川市牛川町ほか

交通：豊橋鉄道市内線「市役所前」停北東約800m

戦国時代、甲斐の国を治めた武田信玄は、甲府盆地を洪水から守るため、釜無川の治水工事を行いました。信玄が釜無川に築いた堤防は信玄堤と呼ばれ、甲府盆地への浸水を大きく減らしました。信玄堤の外側には不連続な堤防が設けられており、霞堤の初期のものとして知られています。

愛知県東部を流れる豊川は、霞堤の治水構造を利用した一級河川です。豊川は、上流は急峻で水量に恵まれる一方、川幅が狭く、大きく蛇行を繰り返しているため、豪雨などでたびたび堤防が決壊し、洪水を繰り返してきました。

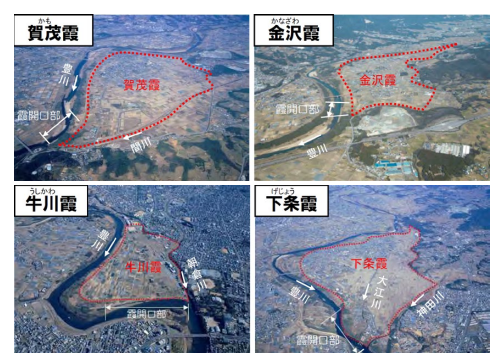
豊川の下流には吉田城とその城下町がありました。天正時代に吉田城主となった池田輝政は、城と城下町を守るために、豊川の堤防に霞堤の構造を取り入れました。霞堤は、堤防の一部を意図的に途切れさせ、川が増水した場合に、途切れた箇所から堤内に設けた遊水地に水を流し、下流での氾濫を防ぐ治水構造です。堤防を途切れさせた部分は「差し口」と呼ばれ、上流側に向けて設けることにより、遊水地へは比較的緩やかに水が流れ込む構造となっています。

霞堤によって吉田の城下町は洪水の被害が大きく軽減されますが、堤内では洪水のたびに浸水に悩まされ、田畑や家屋などに大きな被害が発生しました。豊川では、昭和30年代には右岸側・左岸側合わせて9か所の霞堤がありましたが、昭和40年代に、出水時には、その40%にあたる水量を三河湾に導く豊川放水路が設けられ、その後、右岸側の5か所の霞堤は締め切られました。しかしながら、左岸

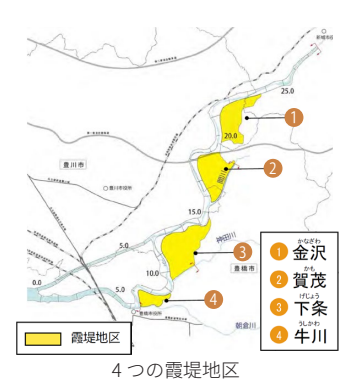
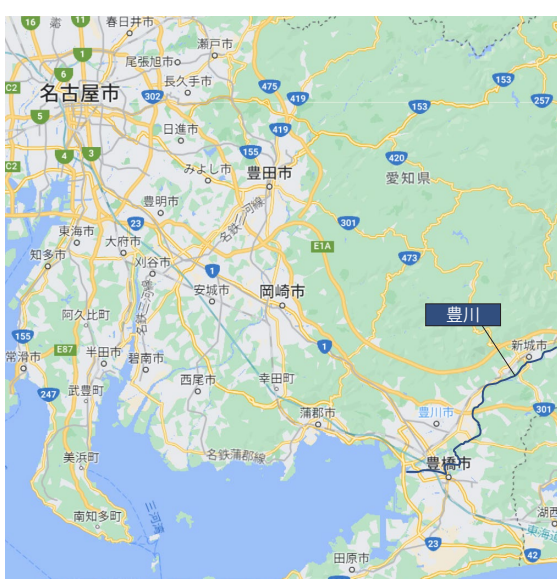
側の4か所の霞堤はいまなお残されており、概ね2～3年おきに浸水が発生していると推測されています。

豊川霞堤地区における浸水被害の軽減を図るため、国土交通省始め関係機関により、豊川霞堤地区浸水被害軽減対策協議会が設立され、豊川霞堤地区浸水被害軽減対策計画を策定して、地区の浸水被害の低減に向けた取組が進められています。ハード対策としては、霞堤地区内への水の流入を抑えるため、霞堤の切れ目を2.5～3m程度低い小堤でつなぐ工事が計画されており、完成すれば、地区内への浸水は10年に一度ほどに減るとされています。併せて、ソフト対策として、地区内の浸水状況をリアルタイムで把握するためのカメラや水位計の設置、水位の情報を届けるメール配信やアプリの提供などの取組が行われています。

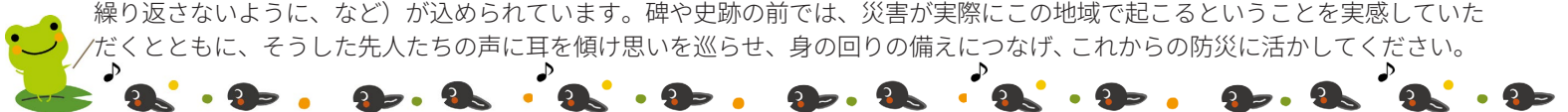
現代では、霞堤地区内には道路が整備され、住宅や店舗、工場などが増え続けているところもあります。国土交通省豊橋河川事務所HPの霞堤地区防災情報ポータルでは、地区の雨量の分布や川の水位、ライブカメラ画像などが見られるほか、過去の洪水の様子や、浸水想定について学ぶことができます。霞堤地区の特性を理解し、しっかりと備えておくことが重要です。



霞堤地区の概要 (豊川霞堤地区浸水被害軽減対策協議会資料より)



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

● 照山 (vol.4,2014.8)

所在地：豊川市金沢（豊橋市賀茂）

交通：JR 飯田線「三河一宮」駅 東約 3km

照山は、豊川市の東の金沢町に位置する標高 124m の低山です。東名高速道路によって分断された南側（豊橋市賀茂町）は照山城跡とされており、加納寺の周辺に土塁跡などの遺構が残されています。

この照山に、天文年間（1532～1555）の津波（高潮・洪水）により豊川河口部に立地する複数の社寺が漂着した、という言い伝えがあります。

2011 年の東日新聞では、天文 8 年及び 9 年の大津波で、馬見塚神明社（馬見塚町）、進雄神社（横須賀町）、満光寺（瓜郷町）、八所神社（大村町）の 4 つの社寺の建物が流出し、うち 3 つは「賀茂の照山」まで流れ着いた記録があることが記事となっています。

2003 年の東愛知新聞では、そのほかにも湊町神明社（豊川河口）、日吉神社（下五井町）、中ノ森の神明社（川崎町）がそれぞれ照山へ流れ着いた、との言い伝えが残されていることを紹介しています。

ところで、愛知県災害誌によれば、天文年間に発生した地震は天文 6 年 12 月 6 日のもののみで、津波が発生した記録はありません。一方で、この間、暴風雨等による水害（高潮・洪水）は 9 回あり、寺院・社寺が津波被害を受けた時期（天文 8～9 年）には暴風雨による水害が多く発生したとの記録があります。ですが、『果たして大地震以外で、これほどの津波（神社や寺が複数流されるような津波）が生じるだろうか。（東日新聞）』記録に残されていない地震や津波がこの地域を襲っていたのかも知れません。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.4 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★花しょうぶまつり

豊橋市賀茂町の賀茂しょうぶ園は、江戸系、伊勢系、肥後系の約 300 種・37,000 株の花しょうぶが咲く、美しい花しょうぶ園です。見頃となる 5 月から 6 月にかけて、花しょうぶまつりが開催されます。（2023 年は 5 月 24 日（水）から 6 月 6 日（火））

園内では一面に花しょうぶが咲き誇り、夜になるとライトアップも行われます。土日のしょうぶ園発の歴史ガイドツアーや、夜の賀茂神社境内でのキャンドルナイトなど、期間中は各種イベントが催され、



子どもを対象に無料の浴衣の貸し出しもあります。インスタグラムフォトコンテストに応募すると、豊橋市の特産品がもらえるキャンペーンも実施されます。

～鉄道で巡る～

豊橋鉄道市内線は、豊橋駅から赤岩口・運動公園を結ぶ路面電車です。夏には納涼ビール電車、冬にはおでんしゃなどの企画列車が、昭和 30(1955) 年製造のレトロな「一つ目」車両を使用して走ります。



狭軌用として初の純国産全面低床車両「ほつトラム」も全国的に注目されています。

吉田城址の豊橋市役所へは、豊橋駅の駅前停留場から市役所前停留場まで 7 分です。隣接の豊橋公園は、牛川の霞堤に通じています。

●ブレイクタイム●

♪ 牛川の渡し

豊川には船で行き来する市道の部分があります。牛川町と大村町を船で結ぶ牛川の渡しは、市道牛川町・大村町 244 号線の一部で、約 70m を 10 分ほどで渡ります。平安時代から運行していたと言われ、明治時代末期には下川村の村営となり、昭和 7 年に豊橋市との合併により豊橋市営となりました。

竹竿で川底を押して進む人力の船としては、愛知県内で唯一のもので、全国でも珍しい渡し船です。運賃は無料で、自転車も渡ることができ、観光や地域の貴重な交通手段として親しまれています。



豊橋市 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災と Seeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

（発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2023 年 6 月）

